

令和5年度 市政懇談会 2回目

- ・日 時 令和5年11月18日(土) 10時00分～12時14分
- ・場 所 寒川農村環境改善センター 2階 多目的ホール
- ・出席者 市長、副市長、教育長
自治会長等58名、傍聴5名
事務局
市民部長、生活環境課長(司会)、生活環境課担当
- ・議 題 (1)市政報告(資料1)
(2)市政への提案・意見等について(資料2)

開催にあたり事前に各自治会から市政全般、地域に共通した内容の市政に対する提案や要望等を募集し、事務局でテーマごとに意見・要望及び回答を取りまとめ資料として参加者に配布した。

時間の関係上、全ての要望等に対する回答は書面として行い、市の課題や広く市民に関係する要望等について市長が回答した後、参加者との意見交換を実施した。

市長の回答及び意見交換の内容は次のとおり

1 統合高校について

○市長回答

統合高校については様々な支会より御意見いただいている。基本的には県立高校3高を県教育委員会が統合するという事で、ここ何年間それぞれの学校OBの方が2万人を超える署名をいただき、どうしたら良いのか議論してきた。私も個別の高校の話をするのは差し控えさせていただくが、3高統合について市としても大事な話であるので、知事や当時の県教育長へ出向き話をした。統合については少子化の中でなかなか生徒が集まりにくい状況で一つの方法として県が考えるのは構わないが、なぜ今の時期(当時はコロナの真っ只中)でしたので、今急いで用地買収や建物を建てて計画では令和10年からの開校となっているが、今の学校を何とか長く使う方法を考えてはどうかと何度も県議や県教育委員会に申し出をした。ただ県としては、県立高校について市長が意見を言うのは構わないが、当然の事ながら県知事が決定する事で結果的には造田地区に3高を統合した高校を新設する協定をし、具体的に用地買収等をしたり、基本計画の策定をしたりと現在進めている。一昨日の市政懇談会の中では、前段として在り方について御意見をいただいたが、それについては連合自治会において議論してはどうかとの話をした所である。回答の中で特に強調したい所や、それ以外に御意見がありましたら御意見いただきたい。

(後日、2023(令和12)年4月開校と報道発表)

○意見交換

【造田支会】

統合高についてはここ2・3年議論されている。当初から予想されていた事だが、石田高校の畜産施設の匂いと水の問題があるため、移動するのは難しいと言われていたが、そのまま現在地に残るようだ。それと最近分かった事であるが、800人近くの規模の高校になるが運動場が手狭になり野球部の子どもたちが石田高校のグラウンドを使わなければいけないと議会

でしているようだ。その中で石田には照明施設がないから志度に立派な照明施設があるからそちらが良いのではないかと9月の議会で話している。これはもともと石田高校を合併するのは無理だと証明する話ではないかと思う。校舎は使わないが、肥料等を置くくらいに使う発想のようだが、目の前の校舎を使えば良いのではないかと思う。もう一つは、統合高は下所であるが水田には適した場所であると思うが、立地場所付近には大きなため池に挟まれる形の水田跡地が建設予定地となっているので、今までの小さな地震であれば良いが、70～80年は使用するかと思うので、南海トラフ地震が来ると考えて震度6から7の場合、対策はするとの話だが、液状化の心配やため池の決壊も考えられるので、建設予定地や避難場所としてふさわしい場所か疑問がある。今、九州のように毎年線状降水帯が起こっているが、その場合もため池から水が溢れる危険性もあるのではないか。現在、調査の段階と聞いているので立ち止まって考える必要があるのではないかと考える。

【市長】

果たして適地なのかという事も含めて指摘がありましたが当然、学校として3高のそれぞれの歴史・伝統を新しい学校でより活かすというのが県の考え方である。例えば子どもにとって支障があるとか、教育ができない事はあってはならないと思っている。その中で指摘や問題点については、今も県教委へはお知らせをして回答をもらうという風に進めていますので、他の場所についての提案は例えば市としてできないと思っていますので、計画の場所するのであれば、県の考え方をもっとお聞きして、疑問点を解消できるような説明を求めていきたいと思っている。県教委からは、高松からも新設校は行く人が多いのでJRだけでなく琴電長尾線を利用の方が共に通いやすいとの話である。防犯灯についての環境整備等については、これから策定する基本計画の中で指摘をしながら、私どもも皆さんと一緒に頑張って良い学校を作りたい。令和10年4月の開校に伴い全学年が通う事になるが、開校日にこだわりすぎず、良くするために万が一開校が延びる場合は早めに情報をいただければ皆さんにお知らせしたい。通う子どもたちが良くなる、地域の方が不利益をこうむらない最大限の努力をしたい。

【志度支会】

そもそも長尾や造田の方々には建設場所を御存じかと思うが、立地の場所が香川県広報誌にも載っていない。そもそもどこにできるのか県の周知ではなく、四国新聞から情報を得るしかないのでは、地元の方との交流がなければ開校する地域の方以外はどこにできるのかさえない。その辺り自体がどうなのか。それと、話は変わるがJA志度の国道整備の時も、道路設計になるのか地元は分からない。仕事は国が行うが、地元の人間が道路設計を知らない。県や市がその辺りをどのように考えているのか。今回県の仕事ではあるが、買収の段階なので具体的な説明はできないのだろうが、まだ発表する段階でないのか、何か事情があるのか基本的にお伺いしたい。

【市長】

用地買収については具体的に動いているはずですので、学校の用地の具体的な場所については出ていない。水や地震、通学路の問題についてはこれからかと思うが、お渡しする事ができるものがある場合は、必要であればお渡しするようにする。

【生活環境課長】

先ほどの高校の件につきましては、県のホームページについても位置図の公表はされてない。準備委員会の情報については、概要等を公表している所かと思うのでお伝えしておく。

【市長】

今の段階で、示せるものについて特にガイド等で分かるものがあれば出せないか尋ねた上で、お届けしたいと思いますのでよろしくお願ひしたい。

【長尾支会】

そもそもの話だが、人口が減少しており、高校を一つにするのがなぜ造田なのか。例えば、通学の交通路、災害安全性、地域の有効性を考えた場合に、長尾や志度、既存の場所に作れば良いと思う。

【市長】

こういう厳しい状況の中で、あえて土地を購入し建てる必要があるのか、もし統合について考えるのであれば当面は今のまま使い、統合するとしてもその中で例えば津田高校、志度高校、石田高校があり、石田の場合は環境面で難しい事もあり、津田や志度を中心に増築する形を取る事もできるのではないかと提案はしたが、基本的には県が決める事であるとの回答であった。私自身も最終的に造田地区になるのは新聞発表とほぼ同時に知ったので、なぜ造田にしたのかは県教委や知事の考えを聞くしか方法はない。

【長尾支会】

聞いてくれるのか。

【市長】

先ほど申し上げたが、高松から通学する場合に、JR や琴電長尾線が利用できて、さぬき市の中に何とか高校を残すという事であれば一番良いのではないかという返事をもらっている。

【長尾支会】

まちづくりで考えた場合に、志度や長尾の方が交通面においても問題ないと考える。志度であれば高校や将来的に文理大学も撤退する事を考えた場合に、まちの規模や力がなくなってくる可能性があると思う。造田に作った場合に、交通の利便性があつたとしても力の分散という事になって、まち自体、全体的にしずんでくるのではないかという不安があるがどのようにお考えか。

【市長】

まちづくりをする中で難しい話であるが、具体的に3高の跡地利用については市の問題である。今から検討する事になるが、県の知事答弁で跡地利用については県としても責任を持って市と協議をして取り組んでまいります。と公に回答してくれている。責任を持つ範囲は分からないが市としては、これから具体的に取り組んでいく。そして、昔と同じようにはいかないが地域の活力が失われないようにこれから市の宿題として残っていくという風に理解している。何が一番良いのかは難しいが、何か企業誘致等施設を持ってきて活用するとか、相手やお金もかかるのでそういった事を含めて建設が進む事と平行して、跡地について県も責任を持って協力してくれると信じていますので、市としても取り組んでいきたいと思っている。

【造田支会】

まちづくりという観点から言っても、例えば志度の事を言われましたが、文理大学が2年

後にはなくなりますよね。その後、3年後に現在の計画であれば志度高校がなくなるので、まちの真ん中に穴が開く状態になる。例えば野球部が今年準優勝しましたが、すごく頑張っていると思う。照明器具も同窓会が何百万もかけて設置しており、勿体ないというのが実感である。津田が過疎地に指定されていますが、今のままでいけば津田高がなくなり、クアタラソも存続が危ぶまれています。そういう風に大事なものがなくなれば65歳以上の人が50パーセントを超える限界集落が近い将来、来てしまうのではないかとのおそれがある。石田は、畜産施設とグラウンドを使用するが、本校舎は使わない事になっているが、徳島の阿南光のように2つのキャンパスを残しているし、池田高校は3つのキャンパスを残しているように、当面利用していく方が無駄なお金もかからないし、生徒も迷惑ではないのではないかと思います。

【市長】

意見は機会毎にこれからも県に対して申し上げたいと思うが、市が主導して3つを跡地にし、造田に新しい物を造るのではないので、その限界は御理解いただきたいし、跡地の話は難しいと思っているが、まちづくりそのものは市の方でというのが県の方針である。県も責任を持って協力するが市で考えていくのが県の姿勢ですので、こういう場で市の問題としてのまちづくりにどんな事ができて、どんな事をすべきかをお聞きする中で、跡地について今回の事はマイナスにならないような取り組みを皆さんの御知恵も借りてやっていきたいと思う。

- 2 広報（広報紙配布）について
- 3 広報（コミュニティ放送・音声告知放送）について
- 4 地域コミュニティ（自治会）について

○市長回答

広報紙の配布方法を4月から各世帯へのポスティング方式に改めてさせていただいた。これについて一昨日も多くの方から様々な意見をいただいた。主な意見ですが、これまで歯を食いしばって自治会活動をしてきた。ところが、事前にアンケート調査をし、50パーセントを超えていない人たちが、自治会に加入していない人に広報紙が届かないのは市民としての公平性に反するのではないかとという要望があったのと、自治会によれば配布する人が高齢等の理由で配布しにくくなったという理由があり、自治会でやるのが限界にきているという意味でポスティングにしたが、その事によって今まで自分たちが育ててきた自治会機能を市の方が壊すような結果になっているので、もう一度考えてはどうかとの御意見であった。具体的には、それが可能かどうかを検討した上で、自治会により今まで通りの所と、ポスティング方式というように自治会が選択できるように考えてはどうかとの意見も出た。技術的に言うと、ポスティングに1千万ほど費用がかかっている。業者へも意見聴取をしなければならないが、自治会加入率が7割程度になっているので、自治会を通じて市の広報を周知するのは難しいので、お金がいるのを覚悟でポスティングをした。さぬき市のタイミングが良かったのかどうかは今回様々な御意見をいただいたので、何らかの形でもう一度調査をしたらどうかという御意見もあった。そもそも広報を今のような紙媒体で届ける事が10年先を見据えた時にどうなのかという事も含めてアンケートなり、皆さんと議論をさせていただきたいと

お伝えした。

○意見交換

【鶴羽支会】

広報紙は配布しなければならないと法律か何かで決まっているのか。

【市長】

決まっていない。

【鶴羽支会】

その辺りで議論しても良いのではないかと思うが、それと、以前は月に1回でよかったのだが、この意見書を出すタイミングで社会福祉協議会から赤い羽根共同募金と、年末歳末助け合い運動のチラシが自治会長に届いた。今頃、赤い羽根かと思いながらテレビを見ていると国会議員は緑の羽根を付けていた。赤い羽根は10月であるのに8月にチラシを配ってしまう。タイミングのずれた配布が現在ある。こういった事をなくしていかないと8月に歳末助け合いのチラシはないだろうと。社会福祉協議会が文書を作るのは良いけれど、社会福祉協議会が作った文書をすぐに支会に出してしまう。支会も自治会長にすぐに出してしまう。自治会長も2か月持つのが嫌だからすぐに出してしまう。私が班長に配布したら次の日に届いた。こういう事をなくす方法を考えないといけない。例えば、私書箱があって毎月配布してほしい物を入れていけば良い。それを自治会長の所に届けば900万もかからない。さぬき市にどれだけの自治会があるか知りませんが、それで自治会の加入未加入に関係なく全て配り、いらぬ人は捨てたら良い。もっと効率よくタイミング的に良い時期に届くようにしなければ広報活動の意味がなくなってしまう気がする。

【市長】

広報紙というのは、しなければならないと決まっていないと先ほどお答えしたが、行政としては様々な情報を市民の皆さんに届けなければいけないと思っている。自治会の加入に関係なく、市民の方に私たちが情報を届ける。その方法を具体的な提案としていただいた。本当に一つは新聞の紙媒体でさえ、10年20年先にはペーパーレスの時代になってくる。今現在の市民の大多数は広報紙が紙で手元に来た方が様々な情報が分かるのではないかと思う人が多いのではないかと思う。ずっと続ける事が難しくなってきた、一つの方法として他市が行っているポスティングを採用した。それが、最終の理想形だとは思っていない。例えば紙媒体がまだ必要な人がいるのであれば、貴重な御意見だと思うが、わざわざ配って行かなくてもどこかに、例えば支所やコンビニ等に置いておけば必要な人が日常的に行く所で取れる。志度駅の中にも広報紙を置いていたかと思うが、そういう風にするのも一つの提案ではないかと思う。もう一つは地区の話ですが、必要な時に渡すような事をすれば良いでしょうけど、基本的に広報紙は行政がお金をかけて皆さんにお届けした方が良いのか、見る人が市役所や近くまで取りに行けるような方法を考えたかどうかという意見も含めているという理解でよろしいか。過去のものにとらわれずに広域的にやるべきだという御意見だと受け取りましたがよろしいか。

【鶴羽支会】

それももちろんあるが、自治会活動の中で自治会が今でも配れば良いと思っている。130件、8班あるがそれを分けるのが自治会長の仕事となっていて、大変な時もあるが皆さんに届け

られるのは健康でできるのがありがたいと思い、今日の会も参加している。自治会活動の一環でお互いに助け合い、市や社会福祉協議会がどんな事をしているか知ってもらいたいという思いでやっていますので、やはりそこで潰さないように。様々な協議会があるが、支所の棚を作りそこへ配布する物を置いていただければ良い。市内に自治会がどこだけあるかわからないが、分ける手間はかけていただいて、自治会もそれなりに動いているのだから、無駄があっても構わない。自治会加入しない人も自治会から配布して捨ててもらえば良い。田舎で地域の人が繋がっていきこうとしているのをもう少し助ける意味でも箱を作って配布する物を入れて自治会長に配布すれば良い。持ってくる人も1回で済むと思うのでそういう風にやっていただきたい。市長が言うようにいろいろな場所に広報紙を置く方法もあると思う。

【市長】

様々な事を考えるように、一昨日も意見が出たが、ポスティングに変更したものをもとに戻す事は難しいかも分かりませんが、やりながらもう一度アンケートを取ってどういう風にすれば良いのか提案をいただき、実現可能かを議論し、もう一度お返しするような事を検討しますとお返事をしましたので、どういう形になるかわかりませんが、当面は、ポスティングさせていただくとしてもう一度今のような御意見も含めてアンケート調査をしたいと思う。

【志度支会】

広報紙もさる事ながら同じ市民でありながら広報紙が自治会に入っていないという事で配布されないという事は不公平であるという事だが、その方たちは社会福祉協議会の赤い羽根や、年末助け合い運動の募金はどうなのか。あくまで寄付であるから本人の気持ちでしようけれど自治会の立場からすれば半強制的に来ており、断っても良いのか。自治会に入っていない人は収めていないが、その人から集めるのは難しい所がある。そもそも社会福祉協議会はさぬき市から独立したものなのかどうなのか。全国的なものなのか。社会福祉協議会からすれば配るタイミングが支会のある時に配布する方が効率が良いという事で、志度支会は9月頃に会があった段階で、歳末助け合い運動のパンフレットも配られた。広報紙を配布するのをやめる時に社会福祉協議会から配布依頼の話も文章もなかった。社会福祉協議会の立場も分かりますが、今まで広報紙を配るタイミングに入れられたからそのタイミングで配る事ができたけども、広報紙配布がなくなったから、暑いさなかに歳末助け合い運動の話をしなければならない。他の自治会長の話でもあったが、手元に長い期間置いておくのもいかなものかという事で先に配布してしまう。広報紙が配られない市民がいる事は分かるが、権利だけを主張し、寄付の行為等はどうか。非常に自分の権利は言うがする事はあまりしていないのではないのか。難しい問題であるのは重々承知しているが、寄付行為どうこうという問題ではなく、なかなか答えが出ない所ではある。

【市長】

世の中は私が言う事ではないが、法律や権利や義務で成り立っている訳ではないと思う。ほとんどの事が一人ひとりの善意というか気持ちの中で今までは曖昧な中でも協力を得る事ができた。自治会について転入した方から御質問をいただくが、どこの法律で自治会に入らなければいけないと理由付けされているのか職員が聞かれるそうですが、それはない。そして入らないでも良いですかと問われたら、義務はないけどもぜひ入っていただきたいというお願いをしている。その段階でそのように言われる方は、ごみの収集は法律上誰がする

のか。一般廃棄物、家庭ごみは市町村で、自治会に加入していなければごみはどうするのかという話になり、今お願いをするという事なので、入らないでいいなら入らない。自治会に加入するメリットは何があるのかという話になり、任意であると言われれば、御自身の判断でお願いしますと、ただ世の中、人間って一人だけで生きている訳ではないのでお互い協力する気持ちが大事ではないですかと。小さい時からそういう風に教育の中でも先生や親御さんとか地域の方に言われてお互い様という事で、あなたも今日まで生活してこられたのではないかと言うのですが、人の世話にはなった事はないという方もいらっしゃる。人と関わらなくても良い、困っても放っておいてほしい、周りに助けてほしいと思っていないと言われる、もう一度考えてみてはどうでしょうと返事するのが現状である。自治会に入るメリットがないという人が多くなっている。気持ちの上とか、人間としてという道徳になってしまうが、市長にいう権利がないと言われれば、地域のために自分には関係ない事でもした方があなたにとっても良いと思いますと。70パーセントの加入率があるという事は、他の面でも何とか持っている。市長として強制をする事はできないので、こういった機会を通じて一人でも理解者を広げていく事をしていきたい。

【松尾支会】

広報紙が将来的にはペーパーレスになるのだと思うが、それとは別に資料7ページに、市からの自治会に対する負担を軽減させる施策やデジタル化の推進とあるが、デジタル化の推進とは具体的にどういうものを目指しているのか分かれば教えていただきたい。

【市長】

例えば市役所がDX、デジタルトランスフォーメーションという計画を作っていますが、「書かない・行かない・待たない市役所」にしようという事で、今までであれば手続きに来ていただいていたのを、デジタルを利用して来なくても様々な手続きができるようにする、それから窓口に来られた人も待たなくてもすぐにできる、例えば証明書について来年度導入しようと考えているがコンビニと同じ機械を窓口に試験的に置いて住民票の写しを、マイナンバーカードを使えば発行できるというような形で、人を介さないでできる事をイメージしている。

【松尾支会】

コンビニ交付をした事もあるが、他の自治体でできているものが、さぬき市ではできないものが少しあると思うので、できるように増やしていただきたい。これはお願いになるが、電子メールによる受領を何度か市の様々な課にメールした事がある。例えば送っても返事が来ない。電話で話をしても担当者の名前を言わないと、別の日に電話すると、一から説明しなければならぬ。送付できていないのかと不安になるのでメールの受け取り確認の返事と、担当者の名前をお願いしたい。

【市長】

メールですぐにお答えできない場合でも、受け取りましたと、後日の回答となる場合は、期日を入れていつまでに返事をさしあげますと返信する。担当名についても市民が行政に対して解決できなくても一緒になって考えてくれる関係が必要であるので、今言われた事は最低限だと思うので徹底したいと思う。

5 まちづくりについて

6 公共交通対策（コミュニティバス）について

○市長回答

まちづくりについては、先ほど3高の時にも申し上げたが、今から住んでいる地域がどうすれば希望を持てるようにするのは大事だと思っている。様々な提案をいただいたが、できる、できないを含めて回答していますが、今、津田地区ですが若い方がまちづくり協議会を作りふるさと海岸を裏津田と名付けて様々な取り組みを行っている。先ほどのデジタルではないが、例えば海の図書館を作る際に全国からボランティアで人を募り、定住人口ではなく関係人口が広がっている。それぞれの地域が同じ事をしてみんなが上手くいく時代ではないので、自分たちで見つけるしかない。その時に、連合自治会と自治会長とで問題提起として例えばヒントになるような事を言って、行政はこんな事は手伝えるという風にお互いに協力したまちづくりが必要になってきますので、様々な提案をいただきたいと思う。よく子どもを遊ぶ公園がないと言われる。ない事はないが高松の道の駅のような大きな公園ではないが、市役所前の広場は、普段はグランドゴルフに活用し、年数回は御自分で草刈りを行っている。また、子どもたちがサッカーや野球で遊んでいる。各地域で例えば土地が空いていれば遊具を設置し、地元の自治会で管理すれば、遊具の設置だけは市がしてくれないかというような話があれば開放するという事でしていますが、なかなか広がっていない。一つでも二つでも広がっていけばまちづくりの突破口になるのではないかと考えている。もう一つコミュニティバスについては、今、全体で6千数百万のお金をかけて様々な路線を走っている。税金から5千万近くを投入している。それが市民の皆さんにとって良かったと思っていただければ一番良いが、いつみても空気しか運んでいないという御意見もいただいている。デマンド方式を試行するなど取り組みを行っている。広域でできるような公共交通機関の整備をして変更したために、生活の手段がなくなったという事にならないよう考えて運行していますので、御意見がありましたらお願いしたい。

○意見交換

【鶴羽支会】

若者が減って、若い方の考え方が結婚に価値を置かなくなっている人が増えている。結婚しても子どもを授かりたくない方も増えてきていますので、人口増は望めない。市長から関係人口の事が出たが、一歩進めて滞在人口の増加にすると、まちに賑わいが出ますし、消費も市内で行われる。滞在人口、特に関西圏から週末にあるいは休日に数日過ごすようなまちづくりに重点を置く方が現実的で将来性もある。鶴羽地区に関しては、御承知かと思うが大川オアシスの下に建物ができた。バーベキューもでき、数日泊まれる施設ができて、平日でも神戸や高松ナンバーが必ず停まっている。大川オアシスの西側に3棟できた場所も常に車が停まっている。その付近にお医者さんが開業し、3階建ての建物に年に2・3か月滞在するために別荘として使っているようだ。津田地区に関しては、滞在型が先行していますので、滞在型人口都市宣言をするぐらいに重点を移動した方が現実的ではないかと思う。

【市長】

今の時代の流れに沿ったような例えば週末だけ、月末だけ等、滞在してくれる人を増やすという事を考えてはどうかとお聞きした。今の住民基本台帳は、定住人口の所在地は一か所

しか認めていない。本来であれば実態に合わせて住所を2つ3つ持ってもらえれば良いと私は勝手に思っているが、そういう訳にはいかない。今ある空き家の1棟貸をする等、利活用をできないか市としても検討している。住民票は移せないけれども滞在人口を増やす事は可能だという事で具体的に検討している。日帰りでも一泊でも滞在される場合に地元で消費してもらう事は大事な観点だと思いますので、滞在人口を増やす御提案について現在少し取り組んでいます、今後もっと取り組んで行きたいと思う。

【鶴羽支会】

併せて空き家対策はこれから大きな課題となる。高齢者に限って言うと、子や孫と一緒に住んでいない家庭が増えたので圧倒的に二人暮らしが多いですが、人口問題研究所の予測では後12年すると一人暮らしと二人暮らしが逆転する。一人暮らしが39パーセント、二人暮らしが33パーセントで逆転すると、ますます空き家が増える。空き家をどう活用するかというので一つはマンション、アパートに住んだ人が定年後、有機野菜を作って食べたい場合、普段は近くの方にお世話いただいて週末には空き家を利用して泊まる。私たちの自治会ではドルフィンセンターに全国から修行に来ており、その方たちに空き家を提供している。大阪や横浜、宮崎から来られている。またこれからますます増える介護施設に勤めている外国人が泊まっている。ホテルより安く泊まれるのでそういった活用もしていかないと空き家が増え続けるので、住民も市も検討していただくとありがたいと思う。

【市長】

空き家対策で二つ大事な事があり、一つは空き家を貸すのに周囲に迷惑になっている空き家をいかにして上手く活用するかという事と、まだ使える空き家をどう利用するか二つの面で現在取り組んでいますので一つの御提案として受け取らせていただく。

【造田支会】

滞在型のまちづくりというのも大切だと思う。ただし、一つの例として高知県に梶原町という所がある。再生可能エネルギーで有名な所で、空き家対策としてリノベーションをしている。安い値段で県外からも若い人が入れるようにしている。本当に安い値段でリノベーションした住宅に2~3万で住める。その場合は滞在型というよりも定住型ですので、保育園から高校まである。給食費についてさぬき市も最近半額補助が実現しましたが、給食費も無料にするとか、何より保護者の仕事を見つけてつくっている取り組みをしている。さぬき市よりはずっと不便な所であるが、定住人口をV字回復は不可能かと思うが、現状維持を目標に取り組んでいる。実現可能な目標になるかと思うので参考例としてお伝えする。

【市長】

参考にさせていただきます。

【神前支会】

この分野でお聞きしたいのだが、45件ほどの自治会であるが、ここ10年間を見ると娘が孫を連れて帰ってきたのが10件ほどあった。一時期小学生も5・6人増えた。10件のうち半数が親の隣に家を建てられなかった。その問題は大川町でも2・3年ほど前のアンケートで都会から帰ってきたい人がいるが、農地のため田んぼからの転用ができず、宅地が建てられない。土地の全てを転用するのではなく100坪くらいを転用したいがそれができない。子や孫でもっとさぬき市に住みたい人が多いので、それは市長の思い切った規制緩和が必要だと思います。

う。それしか子どもを増やす、人口を増やす方法はないと思う。高校生までの給食費無料化も含めて空き家対策についても、御検討いただきたい。

【市長】

県で農林関係の仕事をしていましたが、農地法というのは時代に合っていない部分があるが、一方で有能な農地は何とか残さないといけないと思っている。ただ、現実的には有能な農地なのかを誰も踏み込めない。そのような法律の壁があり、農地転用を例えばさぬき市だけが緩和するのは難しい。農地として残すか、宅地等に転用した方が農業にとってもプラスになるのであれば法律の中で、もう少し地方公共団体の首長の裁量で緩和ができるようにしてほしいとお願しているのですが、私の権限で緩和ができる部分についてはおっしゃった御意見を踏まえて、子どもを産む事は難しい、しかし、既に産まれてきた子どもが転入する事によって子どもの人口を増やすのはこれから考えていかなければ、大事な点だと思いますので参考にさせていただきたい。

【長尾支会】

土地づくりに関しての質問ですが、香川県がうどんだけで年間 400 万人が来ている。三豊市の父母ヶ浜はウユニ塩湖へ SNS 等を活用して 50 万人が観光に来ている。四国の中でも香川県さぬき市はいい所だと思うが、市長からみてさぬき市のアピールポイントがあればお聞きしたい。

【市長】

たくさんあるが一つは地方ならではの自然、しかも瀬戸内海の風景とスピリチュアルと言いますか四国霊場 88 か所の最後の 3 つのお寺が外国の方にとっても都会の方にとっても魅力的であるので、それをベースにしてそれを核として、直接関係ないまちに広げていきたいと思い取り組んでいる。

【長尾支会】

さぬき市のどこが魅力かと考えた場合、瀬戸内の自然、自然災害が少ない事が挙げられる。地元に住んでいる方は気が付かない、当たり前な事が他の地域の方にとっては魅力的だと思う。この前、大川オアシスがマツコの知らない世界に取り上げられた。昭和レトロな喫茶で注目度も高く、若い方々に人気となっており、去年より 2.5 倍の方が来られている。長尾のから風呂にもたくさん来られている。私が言いたいのは、気づきがキーワードではないか。今まで知らなかった事が魅力的であり、移住や関係人口、滞在人口増に繋がる。大串のテアトロンももっと活用できないのか。例えば、誘致できたら日本、世界でない施設だと思うので、費用をかけずにさぬき市をアピールできると思う。市で発信してほしい。

【市長】

今言われた大川オアシスですが、テレビで取り上げられて、休日は開店前から来られている。ただ、大川オアシスはずっと良かったわけではなく、高速ができて一時期お客が少なくなり、辞めなければいけないと思っていたが、一つの事を続けたら良い事もあると店主の方がおっしゃっていた。良い物はたくさんあり、テアトロンもこれまで小田和正やスターダストレビューが年 1 回使用しているが、他で使用していないのもっと一般の方も使えるようにしたい。先日、星を見る会をして都会が来ている人が、天気も良く空気も澄んでいたのですが、こんなきれいな星見た事がないとおっしゃっていた。現地に来てもらうと良かったと思う人

は多いので、今言われた事をヒントにして、一度来てもらい、見てもらうように御指摘いただいた魅力的な施設をうまく利用し、大串にも新しい建物を造っていますので、今あるもの、今から作っていくものを利用する事でまちづくりに活かして、今あるもの、今いる人を活用していきたいと思う。

【鶴羽支会】

さぬき市の合併前にも津田町からたくさんのものがなくなりましたが、合併後には津田病院、県税事務所、鶴羽小学校、鶴羽幼稚園、鶴羽保育所、津田中学校がなくなり、役場が支所から出張所になり、それに伴い教育委員会も移動した。その上に、大事な津田高校が、クアタラソがなくなるかもしれない。なくさないでほしい。お年寄りの健康寿命が延びる事により、国保や介護保険の費用が軽減する。子どもも楽しく水に親しんでいるので、その事も考えて御判断してほしい。私自身もクアタラソに通っている。

【市長】

御意見として承りました。

27 市民病院について

○市長回答

市民病院については回答書に記載のとおりであるが、皆さん自分たちの役に立つようにしてほしいという気持ちは同じだと思う。残念ながら制度上の問題もあるが、コロナ前は毎年赤字で累積 22 億円であった。コロナ禍になり空床保障、患者がいなくても補助金をいただき、ここ 3 年半の間で 10 億円の黒字となっている。今は累積 12 億円である。この調子でいくと累積がなくなると期待したいが、例えば令和 5 年度の収支の見込みでは例年のように 2~4 億円の赤字になる。一番の原因は入院していただける患者数が減っており、入院による収入減によるものである。もちろん、医師不足のために救急から受け入れ要望があった際に、専門医がいなくて受け入れできない事もあり、もし受けられる医師が少しでも増えれば良いが私個人としては市民病院にさぬき市民が一人も来なくなるのが理想である。ただ、それは病気になるという前提であり、今の状況は病気になる人のかなりの人が高松の病院に行っている。ただ市民病院に行かれた方は御存知だと思うが、満員であり、予約しても 1 時間待つ経験があると思う。なぜかと言えば、もともとの大川病院が山手 3 町の病院として、今でいう診療所機能できている。本来、二次医療救急であれば周辺に診療所が充実しており、まず診療所に行き、二次医療が必要であればさぬき市民病院にという形で役割分担できれば良いが、診療所へ行っていただく方が市民病院に来られているので、患者は多いが収入が少ないのが一つある。来年度 4 月から香川大学医学部とさぬき市が医療に特化した連携協定を結び、医師の要請をするという形をとり医師を増やしていただく。その時に緊急医療を少しでも受けられるような医師が来て、そして総合診療専門医も養成する場所として市民病院を使うという所で行っている。すぐに黒字になるとか、赤字が極端に減る事はないが赤字をこれ以上増やさない、かつ地元の方が市民病院を受診するような市民病院にしたいという事で考えている。市民病院の過去の経験を一人ひとりに聞いたら、良いイメージを持たないという意見を何人かからいただいたので、時間は限られていますが市の財政だけでなく市民にとって頼りになる病院になるために御協力をお願いしたい。

○意見交換

【鶴羽支会】

市長が言われたように病気にならなければいい、病気に関しては予防が重要であると思う。毎年、予防接種をしており、市民病院にかかっているので優先的にしていただけるという話を伺っており、葉書が届いたらすぐに予約の連絡をするが、受付は来週からと言われて、翌週の午前中に連絡すると、受付は午後からだと言う話で、何度も連絡している。その辺り市の案内を出すタイミングと病院の受け入れる体制を調整していただけないのか。話を伺うと医師が少ないとの事で苦勞される所があると思うが、市と市民病院の連絡・連携をもう少しうまく行ってほしい。

【市長】

市長部局から案内するのと、市民病院が共通認識を持つのは大事な事だと思うので、そういった事ができるように指導したいと思う。もう一つは先ほど言いましたが、市民病院にかかっている方は市民病院で予防接種をした方が安心感があるというありがたいお話ですが、できればかかりつけ医、地域の診療所の医師と日ごろからお付き合いしていただき、調子が悪い場合はすぐに市民病院に行けるような形を取っていただきたいので、診療所についてもかかりつけの病院、薬局をお持ちいただくようお願いしたい。スピード感を持って適切な医療ができるまた、繋げる市民病院について考えていきたい。

(閉会)